



平成30年4月27日

各 位

会 社 名 ニッポン高度紙工業株式会社  
代 表 者 名 代表取締役社長 山岡 俊則  
( J A S D A Q ・ コード 3 8 9 1 )  
問 合 せ 先 取締役 執行役員経営企画室長 溝淵 泰司  
T E L 0 8 8 ( 8 9 4 ) 2 3 2 1

営業外費用（為替差損）および特別損失の計上ならびに  
平成30年3月期 通期 連結業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成30年3月期（平成29年4月1日～平成30年3月31日）において、営業外費用（為替差損）および特別損失を計上する見込みとなりましたのでお知らせいたします。また、最近の業績動向を踏まえ、平成29年10月27日に公表いたしました平成30年3月期の連結業績予想を修正いたしましたので、あわせてお知らせいたします。

記

1. 営業外費用（為替差損）の計上について

当社は、平成30年3月期連結累計期間（平成29年4月1日～平成30年3月31日）において、為替差損110百万円を営業外費用に計上する見込みとなりました。これは、主に海外子会社への貸付金および売掛金等の外債建債権債務の評価替えによるものであります。

なお、平成30年3月期第3四半期連結累計期間（平成29年4月1日～平成29年12月31日）において、為替差損20百万円を計上しておりましたが、外国為替相場の変動により、第4四半期連結会計期間（平成30年1月1日～平成30年3月31日）では、為替差損が90百万円増加する見込みとなりました。

2. 特別損失の計上について

(1) 連結子会社における固定資産の減損損失の計上（連結決算）

当社の連結子会社でありますフィリピンのパルプ製造会社Albay Agro-Industrial Development Corporation（以下、ALD社という）で、パルプの原料である原麻の調達競争激化を原因とする価格高騰等の事業環境の変化により、固定資産（パルプの製造設備など）について減損の兆候が認められたことから、当該固定資産に係る将来の回収可能性を検討した結果、当社は、平成30年3月期に850百万円を減損損失として特別損失に計上する見込みとなりました。

今般、当社におきまして、会計基準に従い減損損失を計上する見込みとなりましたが、当社グループとして、今後も、原材料の安定調達および収益構造の改善などに継続して取り組んでまいります。

(2) 貸倒引当金繰入額の計上（個別決算）

上記(1)の固定資産の減損損失計上にともない、ALD社は債務超過となる見込みであり、同社への貸付金の回収可能性を検討した結果、貸倒引当金繰入額810百万円を、平成30年3月期において、特別損失として計上する見込みとなりました。

なお、個別決算で計上される当該貸倒引当金繰入額については、連結決算上相殺消去されますので、連結財務諸表に与える影響はございません。

3. 平成30年3月期 通期 連結業績予想数値の修正（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	16,800	1,500	1,500	1,200	111.56
今回修正予想（B）	17,120	1,690	1,560	420	39.66
増減額（B－A）	320	190	60	△780	
増減率（%）	1.9	12.7	4.0	△65.0	
（ご参考）前期実績 （平成29年3月期）	15,089	505	344	△454	△42.21

修正の理由

当社主力製品であるコンデンサ用セパレータは、車載分野での各種ECUなどの低圧品向け、汎用インバータなどの産業機器およびエアコン用インバータなどの白物家電などの中高圧品向けが引き続き好調に推移したことにより、売上高が増加し、営業利益は前回予想を上回る見込みであります。一方、親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、上記2.の特別損失を計上するため、前回予想を下回ることを予想し、通期の連結業績予想を上記のとおり修正いたします。

（注）上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報にもとづき作成したものであり、実際の業績は、今後さまざまな要因によって予想数値と異なる場合があります。

以 上